



申14号「2021年度年末手当等に関する申し入れ」 第3回団体交渉開催！ その3

私たちは、会社回答に納得できませんし、昨年より低額回答となる理由もわかりません。本当に私たちの声を受け止めているのかを再度強く訴えました！

1つの要素で判断するものではないということだが、我々としても非常に苦しい組合員・社員の生活実感について多く訴えてきた。それがどう踏まえられているのかが理解出来ない。生活実感は、経営陣と組合員では生活環境に多くの違いがある。このような組合員・社員の苦労をどれくらい理解しているのか。

お客さまの流動が増えていることは事実である。コロナ禍において不安や疲労を抱えながらも、安全・安定輸送を確保している。その上でコストダウンの取組み、増収に向けた取組みを担ってきた。施策を進めることも疲労感しかないとの声が出ている。そのような現実で仕事を通じた成長だけを求めても、働きがい向上するわけではない。やりがい・働きがいのベースは賃金であり、この回答では納得出来るわけがない。職場の並々ならぬ努力とは大きな乖離がある。本当に数字に反映しているのか。

食費や光熱費、最低限必要な生活用品等の生活費が増加していること、ローン等の支払いに苦慮していること、子供の習い事などにも影響が出て、家族からも不満が出ていることなども訴えてきた。月々の給与では賄えず、ボーナスを切り崩して生活していて、貯蓄が出来ずに将来が不安になっているとの声も出ている。職場の組合員・社員は社会インフラとしての使命を果たしている。そこに対して社員の生活を守ることも、会社の使命ではないのか。そのような組合員・社員の声を到底受け止めた回答ではない。この切実な訴えと大きな乖離がある。

私たちの声を
受け止めろ！



赤字とは言え収入が上がっても賃金には反映されない。このような姿勢であるから若手の離職者が増えているし、今回の結果を見てさらに離職が増えることを本当に危惧する。お客さまが増えて、年末手当は良い方向に向かっているのではないかという期待の声もあった。そのような期待感を裏切り、魅力のない会社になっているのが現場の多くの声である。第2回交渉ではモチベーションが低下し、このままでは組合員・社員の心が離れてしまう。労働組合からの警告だとそこまで述べたが、会社の受け止めは、現場と大きく乖離した回答であり、到底納得出来ず、危機感が高まる回答である。社員の声を受け止めるならば回答を2.7ヶ月に修正すべきである。

いつまで我慢すれば良いのですか。組合員・社員より世間体、マスコミを見ている会社は嫌いですという声が寄せられている。常務の記者会見で「さらなるコストカットに取り組むたい。社員の賞与の削減を行う可能性がある」と述べて、今後の冬のボーナスの支給額については、引き下げも含めた検討に入る考えが示された」との報道があった。その後、手当については議論して決めるものだという交渉の場でも話をいただいたが、記者会見のとおり賞与削減ありきではないかと感じる。これ以上、組合員・社員の心が離れていかないためにも、またモチベーションを向上させ、これまでも上半期の運輸収入を増収させてきたような黒字化に向けた努力に報いるためにも、要求通りの回答への再考を！



回答に至った具体的根拠も示されない低額回答に到底納得できない！
職場の努力に報いた回答、生活実感に重きを置いた回答をすべきだ！